



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **22**
2025/Dec.
令和7年12月16日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



POPCORN PROJECT

【プロジェクトの流れ】

栽培・収穫

育てるところから始まった挑戦



児童たちは学校農園の畑でとうもろこしの栽培に挑戦。種まきから収穫まで、ひとつひとつ丁寧に取り組みました。

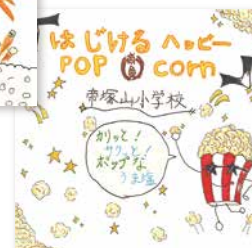


デザイン

商品の顔をつくる



収穫したとうもろこしを使って作るポップコーンの商品化に向け、次に取り組んだのはパッケージデザインです。帝塚山大学現代生活学部居住空間デザイン学科の大里浩二学科長の特別授業で学んだ内容を活かし、アイデアを出し合い、色使いやレイアウトを工夫。出来上がったパッケージには、それぞれの個性が表れています。



マーケティング

どうすれば買ってもらえる？



デザインが固まると、児童たちは“売るための戦略づくり”に挑戦。ポップや看板の制作など、「どうすれば魅力が伝わるか」を考え抜く経験は、児童たちにとって貴重な学びとなりました。また、販売前には試食を行い、味や食感を確かめたうえで、最終的に塩味に決定しました。



販売

想いのこもった商品を届ける



販売当日は、児童たちが店頭に立ち、呼び込みから会計までを担当。完売の瞬間には喜びの声が上がり、これまでの努力が実った達成感に包まれました。



TEZ' FESでの販売の様子は、7ページをご覧ください。

ポップコーンプロジェクト

特集

小学校5年生探究型キャリア教育

栽培から商品化までを体験
毎年11月に開催されるTEZ' FESでは、5年生が学校農園で育てた野菜を販売する伝統的な「八百屋」を行ってきました。今年はこの活動に新たな学びを加え、原材料であるとうもろこしの栽培から商品化までを体験する「ポップコーンプロジェクト」が始動しました。プロジェクトを担当した小学校の吉川澄人教師の指導の下、「キャリア教育」として発展させ、自分たちの手で原材料を育て、商品デザインして形にし、消費者へ届けるまでを二貫して体験。探究学習の枠を超えた実践が、児童たちの主体性と創造性を大きく育む取り組みとなりました。

T-time

帝塚山学園広報誌

2025/Dec.

令和7年12月16日発行 Vol. 22

〈表紙の写真〉

ポップコーンの販売に挑戦する小学校5年生3人。少し緊張した表情ながらも、販売スタッフとしてブースに立ち、しっかりと責任感をもって取り組む姿が見られました。



Contents

特集 P 02

小学校5年生探究型キャリア教育「ポップコーンプロジェクト」
—栽培から商品化までを体験—

大学 P 03

子どもたちの笑顔あふれる秋の一日
「第2回てづかのこどもフェス」を開催

TOPICS

- ・女子バレーボール部、関西インカレ優勝と関西バレーボール連盟春秋連覇の快挙! 一新体制で臨んだ2025年度、圧倒的な強さで関西を制す—
- ・奈良外語学院で留学生に向けた出前授業を実施
- ・金融リテラシー教育で実践的学びを
経済経営学部 × SBI FXトレード株式会社による対面授業を実施

中学校・高等学校 P 05

古代稲と地域の絆 “神丹穂”がつなぐ学びと交流

TOPICS

- ・「モノづくりプロジェクト」が万博で躍動
大阪・関西万博にて「STEAM Girls Award」を受賞
- ・未来を切り拓く「データの力」
アクセンチュア株式会社と共に学ぶSTEM高校講座を開催
- ・マイナビキャリア甲子園で快挙
奈良県知事を表敬訪問

小学校 P 07

学びが形になった日 5年生ポップコーン、TEZ' FESで販売

TOPICS

- ・英語で広がる世界への第一歩 国内で体験する英語国内留学
- ・グラミー賞受賞作曲家・宅見将典さんよりグランドピアノと書籍
のご寄贈 一音楽を通じて母校の子どもたちへ夢と希望を—
- ・舞楽の美と歴史にふれる
—大和文華館「みやこの舞楽」特別展見学—

幼稚園 P 09

心に刻まれる夏の思い出 年長組お泊まり保育

TOPICS

- ・「未来の演奏家育成事業」弦楽コンサートを開催
—本物の音楽に触れる特別なひととき—
- ・小さな手と笑顔がつなぐ あたたかい交流の時間
- ・「わっしょい!!」のかけ声響く 夏恒例てづきッズまつり
- ・実りの秋を体いっぱい感じて
園児たちが稲刈りと自然体験を楽しみました

活躍する帝塚山生 P 11

教育連携 P 13

・同窓会だより P 17

・INFORMATION P 18

UD FONT



女子バレーボール部、関西インカレ優勝と 関西大学バレーボール連盟春秋連覇の快挙！ — 新体制で臨んだ2025年度、圧倒的な強さで関西を制す —



女子バレーボール部が、2025年度シーズンにおいて輝かしい成果を収めました。まず、10月19日に最終日を迎えた「2025年度関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦」女子1部では、11戦全勝で優勝。春季リーグ戦に続く2連覇(春秋連覇)を達成し、これは本学として初めて、さらに奈良県勢としても初の快挙となりました。

今春、新監督として藤田幸光監督を迎え新体制で挑んだ女子バレーボール部は、春季リーグ戦で7大会ぶりの優勝を飾り、見事な

復活を遂げました。上述の秋リーグでは全勝優勝。そして11月に行われた「2025年度 Phiten CUP 関西バレーボール大学男女選手権大会(関西インカレ)」でも、全試合ストレート勝ちで優勝。関西インカレでの頂点は2021年度以来となり、帝塚山大学女子バレーボール部の成長と実力を改めて内外に示しました。

「関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦」ではチームとしての安定した強さに加え、個々の能力も高く評価され、以下の選手・監督が個人賞を受賞しました。

INDIVIDUAL AWARD

- 〈最優秀選手賞〉堺目 愛和さん(現代生活学部 4年)
- 〈ベストスコアラー賞〉堀 由佳さん(心理学部 4年)
- 〈ベストリベロ賞〉三反畑 奈々星さん(経済経営学部 4年)
- 〈セッター賞〉曾田 凜華さん(心理学部 2年)
- 〈最優秀監督賞〉藤田 幸光監督

藤田監督の下で急速に力を伸ばし続ける帝塚山大学女子バレーボール部。今後のさらなる飛躍に、ぜひご注目ください。



法学部生 奈良外語学院で 留学生に向けた出前授業を実施



法学部の笹邊将甫学科長とアドバンス生が、学校法人辰巳学園奈良外語学院を訪問し、日本で学ぶ留学生に向けた出前授業を行いました。

学校法人辰巳学園の理事長・校長である辰巳友昭氏は、本学園の評議員を務めておられ、本学中学・高校の卒業生でもあります。

今回の出前授業では、「日本で安心して暮らすために知っておきたいこと」をテーマに、日常生活に関わる法律やマナーについて分かりやすく紹介しました。授業では、交通ルールや防災の知識、公共のマナー、そして犯罪に巻き込まれないための注意点など、幅広い内容を取り上げました。

学生たちは、それぞれの担当テーマについて、留学生が理解しやすいよう、ゆっくりとした日本語で丁寧に説明を行いました。休憩時間には、学生と留学生が笑顔で交流する姿も見られ、多文化理解が自然に深まるひとときとなりました。

参加したアドバンス生の一人は、「日本で暮らすうえで、当たり前だと思っていたことも外国の方にとっては新しい発見になると感じました。言葉の使い方や説明の仕方を工夫することの大切さを学びました」と振り返りました。

学生にとっても留学生にとっても、学びと交流を通して多くの発見があり、互いの理解を深め合う有意義な時間となりました。



金融リテラシー教育で実践的学びを 経済経営学部×SBI FXトレード株式会社による対面授業を実施



本学では、2019年にSBI FXトレード株式会社およびSBIリクイディティ・マーケット株式会社との間で「金融リテラシー教育に関する産学連携協定」を締結し、学生の実践的な金融知識の向上を目的とした教育活動を推進しています。経済経営学部ではその一環として、

これまで両社との協力の下、オンライン形式で特別講義を実施してきましたが、今年度からは吉野功一准教授が担当する「国際経済事情」の授業内で、対面による実践的な学びがスタートしました。

この日の授業テーマは、FX(外国為替証拠金取引)における「リスク管理とFX取引の準備」について。SBI FXトレード株式会社の担

当者を講師に迎え、実際の取引事例を基に、損失を最小限に抑えるリスク管理やチャートの読み解き方などを学びました。学生たちはリアルな市場の動きを感じ取りながら、教科書だけでは得られない金融実務の理解を深める貴重な機会となりました。

授業を受けた学生からは、「ドル/円のチャートを中心に学びましたが、実際の為替の動きを見ることで理論だけでは分からなかった市場の変化を実感できました。今後は経済ニュースを意識的に追いつながら、リスクを把握したうえで実際のトレードにも挑戦したいと思いました」との声が寄せられました。



子どもたちの笑顔あふれる秋の一日 「第2回てづかのこどもフェス」を開催



10/25
UNIVERSITY

教

育学部による「第2回てづかのこどもフェス」を開催しました。未就学児から小学生とその保護者を対象にしたこのイベントは、小学校教諭や幼稚園教諭、保育士を目指す学生たちが主体となって企画・運営する地域交流イベントで、昨年に続き

多くの人でにぎわいました。当日は、親子で楽しめる4つのプログラムが用意され、「うんどうのおへや」「えいごあそびのおへや」「あーとのおへや」「かたのおへや」では、教育学部の学生たちが工夫を凝らした内容で子どもたちを迎えました。「うんどうのおへや」では親子で協力して体を動かし、「えいごあそびのおへや」では英語の歌やダンスで笑顔が広がりました。「あーとのおへや」では世界に一つだけの作品づくり、夢中になる姿が見られ、「かたのおへや」ではマグネットブロックやパズルゲームを使った遊びを通して創造力を育む時間となりました。学生たちはこれまで学んできた知識を活かしながら、参加した親子が安心して楽しめるイベントづくり

に取り組み、参加したご家族からは「学生さんたちの温かいサポートで、子どもも楽しんでいました」といった声が寄せられました。

プログラムの最後は、認定絵本士の資格を持つ学生による「スペシャルおはなし会」。会場にはたくさんのお親子が集まり、オープニングから笑顔と拍手があふれました。手あそび歌では子どもたちが元気いっぱい体を動かし、「言の葉紙しばい」や大型絵本ではお話の世界に引き込まれていました。

本イベントを通して、学生たちは地域の方々と直接ふれあうことで、教育の現場と地域社会をつなぐ意識を深めました。普段の授業では得られない実践的な学びが、教育者を目指す学生たちの成長を大きく後押しする一日となりました。





「モノづくりプロジェクト」が万博で躍動 大阪・関西万博にて「STEAM Girls Award」を受賞



受賞しました。「STEAM Girls Award」は、資生堂のラグジュアリーブランド「クレ・ド・ポー ボーテ」と株式会社steAmが共催し、女子児童・生徒によるSTEAM※1分野の探究活動を表彰するものです。

今回の成果は、村田学術振興・教育財団の助成を受けて取り組んできた「モノづくりプロジェクト」の集大成として、本校の生徒たちが万博の舞台上で堂々と輝いた瞬間となりました。

授賞式では、イベントプロデューサーであり株式会社steAm代表取締役の中島さち子氏より直接表彰を受け、生徒の努力と創造力が大舞台で高く評価されました。



受賞した取組は、3Dプリンターで作成した楽器に加速度センサーを取り付け、振動をArduino※2で処理してシャボン玉を発生させる「ミュージックバブル」です。会場では多くの来場者に披露され、大きな注目を集めました。

また、同じく「モノづくりプロジェクト」に取り組んできたもう一つのチームは「組木を使った生分解性小規模水力発電の開発」をテーマにポスター発表を行い、持続可能な社会への貢献を見据えた独創的なアイデアを紹介しました。

生徒たちにとって、科学や文化の多様な可能性に触れる貴重な体験となりました。

※1 STEAM…科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・リベラルアーツ等(Arts)、数学(Mathematics)の5つの分野の英単語の頭文字を組み合わせた造語。

※2 Arduino…電子工作等でよく使用されるマイクロコントローラーを搭載した基板



未来を切り拓く「データの力」 accenture アクセンチュア株式会社と共に学ぶSTEM高校講座を開催

アクセンチュア株式会社の協力の下、「STEM※高校講座」を開催しました。本講座は、データサイエンスの学びを通して、論理的思考力や問題解決力を育成することを目的としたキャリア教育プログラムです。

今回のテーマは「架空の遊園地の売上アップ」。生徒たちは遊園地の本部スタッフになったとの想定の下、フード本部・商品本部・イベント本部の3つのチームに分かれ、

それぞれが与えられたデータを分析し、売上向上のための施策を検討。アクセンチュア社員の方からも直接アドバイスを受けながら、仮説立案

から分析、施策提案、そして最終プレゼンテーションまで、実際のビジネスに近い流れを体験しました。教室は終始、活発な議論と熱意に満ちていました。参加した生徒からは、「データサイエンスは難しそうな印象でしたが、チームで意見を出し合ううちに、数字を根拠に仮説検証するのが面白かったです」や、「実際の企業の方と話すことで、働くことのリアルなイメージが持てました。将来はITやビジネスの分野に挑戦してみたいです」といった声が聞かれました。

講座の最後にはアクセンチュアの講師陣との交流会も行われ、進路相談や仕事に関する率直な質問が飛び交いました。

※STEM…科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics)の4つの分野の英単語の頭文字を組み合わせた造語。



マイナビキャリア甲子園で快挙 奈良県知事を表敬訪問

第11回マイナビキャリア甲子園決勝大会において、本校から出場した3チーム「ロックロック」「もこもこバイターズ」「セプトプレス(仮)」が決勝進出を果たしました(T-time Vol.21に詳報)。史上初めて同一高校から3チームが決勝に進む快挙であり、さらに「ロックロック」がdiscovery部門で優勝、「もこもこバイターズ」が準優勝を収め、本校がダブル受賞を達成しました。

これを受けて、生徒12名は小林健校長、担当教員の西川和宏教諭とともに奈良



県庁を訪れ、山下真知事を表敬訪問しました。当日は、優勝チームのパートナー企業である日本生命奈良支社長赤城様、市場振興部長詠田様、マイナビキャリア甲子園運営責任者鈴木様、マイナビ大阪支社長竹内様にもご同行いただきました。

生徒たちは挑戦を通して培った発想力やチームワークを堂々と語り、知事からも今後の活躍への期待とお祝いのお言葉をいただきました。

古代稲と地域の絆 “神丹穂”がつなぐ 学びと交流



今年度は、地域との交流をさらに深める新たな試みとして、会場にブースを設け、ジューズの提供を行いました。ジューズは大学現代生活学部食物栄養学科・藤村太一郎ゼミと共同で開発した、赤しそと古代米「神丹穂」を使った自家製シロップをベースに、炭酸で割った「神丹穂ソーダ」

の成果を伝えてきました。イベントには、地域と連携して学びを深める「田んぼプロジェクト」に参加する生徒たちも毎年参加しています。これまで生徒たちは、地元農家の協力を得ながら行ってきた農業体験や獣害対策に関する探究活動の成果を会場で発表し、地域の方々に学びの成果を伝えてきました。

この「古代稲を愛でる会」は、食と音楽、そして自然を楽しむイベントです。秋の陽を浴びて深紅に色づいた古代稲「神丹穂」が風に揺れる中、地域の方々が来場者が自然の恵みを感じながら穏やかな時間を過ごしました。

参加した生徒の一人は、「自分たちが考えたジューズを地域の方々や来場者に喜んでもらえて嬉しかった。大学とも交流ができ、貴重な経験になった」と話しました。古代稲を眺め、土地の恵みに感謝する「古代稲を愛でる会」は、自然と人、そして地域と若者を結ぶ時間となりました。今後とも田んぼプロジェクトでは、地域とのつながりを大切にしながら活動を続けていきます。

※大学現代生活学部食物栄養学科 藤村太一郎ゼミとの共同開発の様子は13ページをご覧ください。





英語で広がる世界への第一歩 国内で体験する英語国内留学

小学校では、毎年3年生から6年生を対象に、国内で留学体験ができる「英語国内留学」を大学の東生駒キャンパスで実施しています。

本プログラムでは、英語でのコミュニケーションを通して算数や図工、理科などの教科を学び、英語力の向上だけでなく、異なる文化や考え方にふれることを目的としています。英語を「教科」として学ぶだけでなく、「道具」として使うことの楽しさを体感できるのが特徴です。



当日は、児童たちがグループに分かれ、講師の先生方と英語でやり取りしながら活動に挑戦しました。

初めは緊張した表情を見せていた児童も、ユーモアあふれる講師の指導や、ジェスチャーを交えたやりとりを通して次第に笑顔に。午後には積極的に発言したり、友達と協力して課題を解決したりする姿が見られました。

参加した児童からは、「英語を話すのは難しかったけれど、通じたときに嬉しかった」「もっと話せるようになりたい」といった感想が寄せられ、英語への関心が一層高まったようです。

英語国内留学は、語学力の向上だけでなく、異文化理解やコミュニケーション力、主体的に学ぶ姿勢を育む貴重な機会です。児童たちはこの経験を通じて、世界へと視野を広げる第一歩を踏み出しました。



グラミー賞受賞作曲家・宅見将典さんより グランドピアノと書籍のご寄贈

—音楽を通じて母校の子どもたちへ夢と希望を—



本校の卒業生であり、世界の音楽シーンで活躍する作曲家・宅見将典さん(第65回グラミー賞受賞アーティスト)より、このたびグランドピアノと書籍をご寄贈いただきました。

今回のご寄贈には、「音楽を通して母校の子どもたちに夢や希望を持ってほしい」という温かな想いが込められています。

グランドピアノは音楽の授業

だけでなく休み時間にも多くの児童が集まり、自然に音を奏でたり、歌を口ずさんだりする姿が早速見られました。

▲写真は宅見将典さんご提供

また、寄贈いただいた書籍は、宅見さんご自身の歩みを綴った『人脈ゼロ英語力ゼロ 無名のバンドマン、グラミー賞を獲る 一途方もない夢の叶え方』(出版社:KADOKAWA)です。

バンド脱退や挫折を経験しながらも、再び立ち上がり、世界最高峰の音楽賞にたどり着くまでの挑戦と努力が描かれています。困難を乗り越え、夢を叶えていったその歩みは、児童たちに「諦めない心」の大切さを教えてくれます。

児童たちは、憧れの先輩が歩んだ道に自分の夢を重ね、音楽の楽しさや表現の豊かさを感じています。

このピアノと書籍が、これから多くの児童たちの感性を育み、夢へと踏み出すきっかけとなることでしょう。



舞楽の美と歴史にふれる —大和文華館「みやこの舞楽」特別展見学—



を、4～6年生の児童が学年ごとに見学しました。10月21日は5年生の見学日で、児童たちは奈良時代から続く伝統芸能「舞楽」の歴史と美しさを、実際の舞楽面や舞楽図を通して学びました。



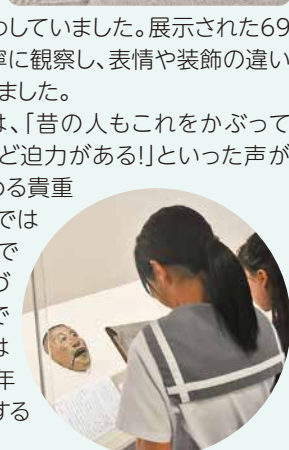
館内では学芸員の方から展示解説があり、「このお面はどんな表情だと思う? 怒っている顔? 喜んでいる顔?」「これは何の動物のお面



かな?」といった問いかけに、児童たちは想像力を働かせながら活発に意見を交わしていました。展示された69点の作品を一つひとつ丁寧に観察し、表情や装飾の違いに目を輝かせる姿も見られました。

見学を終えた児童からは、「昔の人もこれをかぶって踊ったのかな」「顔がかわいけど迫力がある!」といった声が聞かれ、芸術や歴史への関心を高める貴重な学びの時間となりました。6年生では

毎年、美術の授業で陶芸による「お面づくり」にも取り組んでおり、今回の見学は5年生にとって、来年の創作意欲を刺激する機会となりました。



学びが形になった日

5年生ポップコーン、TEZ' FESで販売



11月1日に開催された「TEZ' FES」では、5年生が取り組んできたポップコーンプロジェクトの締めくくりとして、オリジナルポップコーンの販売が行われました。校内には、児童が制作した明るい色使いのポップやポスターが掲示され、開始前からブース周辺はにぎやかな雰囲気になっていました。

販売の時間になると、5年生は呼び込みや宣伝、会計など、事前に決めていた役割ごとに担当場所へ移動しました。呼び込みチームは大きな声で「いらっしゃいませー」と来場者に声をかけ、宣伝チームは校内を巡ってチラシを配布。マーケティングで学んだことを踏まえ、自分たちなりに「どうすれば買ってもらえるか」を考え、行動に移していました。

ブース前にはすぐに行列ができ、児童たちは慣れないながらも笑顔で接客を行っていました。袋詰めや金券の受け渡しなどの作業も、友達と声を掛け合いながら丁寧に進め、役割分担の大切さと協力することの意味を実感している様子が見られました。会場のあちこちで「呼び込み頑張つて!」「あと何袋?」と声を掛け合う姿もあり、学年全体で一つの成果をつくり上げる意識が高まっています。

「TEZ' FES」での販売は、その学びの集大成となる場であり、5年生にとって大きな成長を実感する貴重な経験となりました。

本プロジェクトは、とうもろこしの栽培からパッケージデザイン、マーケティング、販売までの一連の流れを体験する探究型学習として実施され、企業や帝塚山大学との連携も得ながら進められてきました。

「友だちと助け合ってできたことが嬉しかった」といった感想がこぼれ、達成感に満ちた表情が印象的でした。

活動していたのが印象的「といった声が寄せられ、5年生の生き生きとした姿が来場者にも届いていたようです。完売後は、児童から「すごく緊張した!」声を出すのが大変だったけど頑張れた!」





「未来の演奏家育成事業」弦楽コンサートを開催 —本物の音楽に触れる特別なひととき—

奈良県がJapan National Orchestra株式会社(JNO)と協働で実施している「未来の演奏家育成事業」の一環として、本園リズム室にて弦楽コンサートが開催されました。この事業は、県内の子どもたち(未来の演奏家)に一流の音楽を届けるとともに、演奏家との交流を通して音楽への関心を高めることを目的としています。

当日は、JNOのメンバーであるチェロ奏者の佐々木賢二さんとコントラバス奏者の水野斗希さんによるデュオ演奏が披露されました。園児たちは、普段はなかなか間近で聴くことのできない弦楽器の深く豊かな音色に耳を傾け、その響きを全身で感じ取っていました。



プログラムは、まず楽器紹介から始まり、サン＝サーンスの「白鳥」や「動物の謝肉祭」より「象」、さらに園児たちに馴染み深い「かえるのうた」など親しみやすい曲目が続きました。演奏の合間には質問コーナーも設けられ、穏やかな雰囲気の中プログラムが進められました。

後半では、バリエール作曲の二声ソナタ、ロッシーニの二重奏曲など本格的な作品が取り上げられ、豊かな音色と迫力ある響きに会場は大きな拍手に包まれました。今回の特別なひとときが、園児たちの心に音楽の喜びと感動を刻む時間となりました。



小さな手と笑顔がつなぐ あたたかい交流の時間

年長組の園児たちが、近隣の高齢者施設「スーパー・コートプレミアム奈良・学園前」を訪問し、入居者の皆さまと心あたたまる交流のひとときを過ごしました。

はじめは少し緊張した様子の園児たちでしたが、「こんにちは!」と元気いっぱいに挨拶をすると、会場はたちまち笑顔に包まれました。続いて、宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」を真剣な表情で暗唱。言葉一つひとつに思いを込める園児たちの姿に、入居者の皆さまも静かに耳を傾けておられました。その後は、手話を交えて歌う「おひさまになりたい」や秋の

季節を感じさせる「むしのこえ」を披露。園児たちの

明るい歌声に合わせて、自然と手拍子が広がりました。さらに、「げんこつやまのためぎさん」や「幸せなら手をたたこう」の手遊びでは、園児たちがリード役となり、入居者の皆さまと一緒に体を動かして楽しい時間を過ごしました。最後には、「いつまでもお元気で」という気持ちを込めて、園児たちが手作りのしおりをプレゼント。笑顔と「ありがとう」の声があふれる中、温かな拍手に包まれて交流を終えました。



「わっしょい!」のかけ声響く 夏恒例てづキッズまつり

今年の夏も恒例の育友会主催による「てづキッズまつり」が行われました。園内は色とりどりの提灯や風鈴で飾られ、普段の園舎が一気にお祭り会場へと変身。サッカーストライクやヨーヨー釣り、輪投げなどのゲームコーナーには長い列ができ、園児たちは友達や先生と声を上げながら楽しんでいました。

流しそうめんでは、流れてくるそうめんを夢中ですくい、何度もおかわりする姿が見られました。またスイカ割りでは、「もっと右!」「がんばれ!」と大きな



声援が飛び交う中、見事スイカが割れると大歓声が響きました。

続いて行われた「おみこしリレー」では、年長組と年中組が力を合わせて担ぎ、リレー形式で挑戦。年少組も元気いっぱいの応援団として参加しました。園児全員が一つになり、「わっしょい!」のかけ声で会場は熱気に包まれました。

さらに、帝塚山大学児童福祉ボランティアサークル「どれみ♪」による劇も披露され、園児たちの笑顔があふれる1日となりました。



実りの秋を体いっぱいに感じて 園児たちが稲刈りと自然体験を楽しみました

澄み渡る秋空の下、小林弘明前育友会会長のご厚意で田んぼをお借りし、園児たちが稲刈りを体験しました。黄金色に染まった稲穂の前に、園児たちは興味津々。鎌を手にするのは初めてという園児も多く、最初はおそるおそるでしたが、先生や保護者に手を添えてもらいながら、次第に上手に刈り取ることができました。

田んぼの周りには秋の自然がいっぱい。作業の合間には、バッタやカエルを追いかける姿も見られました。稲の根元から飛び出すバッタを夢中で追いかけたり、水辺で跳ねるカエルを見つけて歓声を上げたりと、自然ならではの発見がたくさんありました。「つかまえたよ!」と笑



顔で虫かごを見せる園児たちの表情には、野遊びの楽しさがあふれていました。

稲刈りを終えた後は、ほくほくの焼き芋を皆で味わいました。「あまくておいしい!」「おかわりしたい!」と頬をほころばせる園児たちの姿に、秋の実りの喜びが感じられました。さらに、田んぼでは昨年に続いて綱引き大会も開催。園児たちは仲間と力を合わせて綱を引き、最後は保護者の皆さんも加わって「園児チーム対保護者チーム」の白熱した勝負に。笑顔と歓声が響く、にぎやかな時間となりました。

自然と触れ合い、仲間と協力しながら秋の恵みを体いっぱいに感じた一日。園児たちにとって、心に残る大切な思い出となりました。



心に刻まれる夏の思い出 年長組お泊まり保育



年

長組が心待ちにしていたお泊まり保育が、夏の青空の下、行われました。家族と離れて友達や先生と過ごすこの行事は、園児たちにとって特別な体験のひとつです。

初日の午前は、奈良の伝統工芸「赤膚焼」の窯元を訪れ、湯飲み作りに挑戦しました。工房では、みるみるうちに美しい作品が出来上がる様子に、園児たちは「すごい!」「早い!」と目を輝かせて見入っていました。いざ自分たちの番になると、少し緊張した面持ちで粘土を手に取り、一生懸命こねながら形を整えていきま

す。星やハート、波模様など、思い思いの模様をつけて個性豊かな作品が完成しました。出来上がった湯飲みは、後日焼き上げられ、園の制作展で披露されます。どの園児も完成を心待ちにしている様子でした。

午後は京都府の宿泊施設「アクトパル宇治」へ移動。バスの中では、先生によるクイズ大会や歌の合唱で大盛り上がり。友達と笑い合いながら過ごす時間に、次第に緊張もほぐれていきました。

到着後は自然いっぱいの川辺で水遊び。事前に自分たちで絵を描いた小さな船を浮かべて流したり、サワガニやカエルを見つけたり、大はしゃぎしたりと、自然の中でのびのびと過ごしました。

夜は待ちに待ったキャンプファイヤー。夕方から降り出した雨も奇跡的に止み、火の神様が登場すると、園児たちは歓声を上げて大喜び。燃え上がる炎を囲んで歌を歌い、ゲームをして楽しみました。

お風呂の後は、皆で布団を敷き合い、「おやすみ」「また明日ね」と笑顔で眠りにつきました。翌朝は、早起きして友達と朝の散歩へ。爽やかな風の中、「昨日の川楽しかったね」「またみんなで来たいね」と話す姿に、ひと晩でぐんと成長した頼もしさを感じられました。

友達と過ごした笑顔あふれる2日間は、園児たちの心にいつまでも残る夏の思い出となりました。



大学経済経営学部 姜ゼミの学生が東北アジア観光学会大学生国際発表大会で優秀賞を受賞！

大学経済経営学部の姜聖淑教授のゼミに所属する学生7名が、8月22日から24日にかけて韓国・東義大学で開催された「東北アジア観光学会大学生国際発表大会」に参加し、見事優秀賞を受賞しました。

本大会には、日本と韓国の大学から約100名の学生・教員が参加し、観光に関する多様なテーマで発表が行われました。姜ゼミの学生たちは「持続可能な観光資源としての奈良公園の鹿の価値を考察する」と「2030年、大阪IRの収益を活用した教育環境の改善策」の2本の研究を発表。そのうち、「持続可能な観光資源としての奈良公園の鹿の価値を考察する」が優秀賞に選ばれました。

受賞研究では、奈良公園の鹿を地域の象徴であるとともに重要な観光資源と捉え、ESG(環境・社会・ガバナンス)の視点からその価値を分析。観光を通じた地域の持続可能な発展と、奈良の魅力発信に向けた新たな提案を行いました。

また、学生を指導した姜教授も「優秀教育者賞」を受賞されました。

【受賞者】米田 幸将さん 齋藤 遼さん 高園 獅子さん 山口 心海さん
【参加学生】今井 大聞さん 兜金 万里奈さん 中部 萌さん
※いずれも経済経営学部3年



日経STEAM2025シンポジウムで「steAm特別賞」受賞！

大阪・東京の2会場で同時開催された「日経STEAM2025シンポジウム」に、本校から内藤葵さん(高2)と細谷香帆さん(高2)が有志で参加しました。今年の共通テーマは「私たちは問う 自由で豊かな未来のために」。大阪会場24チーム、東京会場5チームが登壇し、それぞれが考える“理想の未来”を多角的な視点で発表しました。



左より細谷さん、内藤さん

二人は、プログラムのひとつである「私たちは問う 自由で豊かな未来のために 発表コンテスト」にエントリーし、チーム名「ふうせんメモリー」として登壇。

発表テーマは「音によってふくらむ集中力」。日常の「音」に着目し、集中力向上を支援する新しい仕組みを提案した独自性が高く評価され、見事「steAm特別賞」を受賞しました。

高校生ICT Conference 2025 東京サミットに奈良県代表として出場

11月3日に東京で開催された「高校生ICT Conference 2025 東京サミット」に、本校の小山知紗さん(高2)と金川慧玲さん(中3)が、奈良県代表として出場しました。

ICTカンファレンスは、中高生が「スマートフォンやインターネットの安心・安全な活用方法」について深く議論し、その成果を政府に提言する全国的な取り組みです。今年度からは中学生も参加できるようになり、小山さん、金川さんの二人は、9月28日に帝塚山大学で開催された「高校生ICTカンファレンス2025 in 奈良」(大会運営:中高・西川和宏教諭)で今大会の代表に選出され、全国の舞台へと進みました。

当日は「中高生が考える世代を超えたICTやAIの活用と課題解決の提案」をテーマに偽・誤情報などのリスクを見極め、安全で豊かな情報社会を築くための提言を発表するという、非常に高度なものでした。全国から集まった代表者たちと熱い議論を交わす中、二人は奈良県代表として、日頃の学習と熟慮に基づき、堂々とした発表を披露しました。



左より小山さん 金川さん

高円宮杯 第77回全日本中学校英語弁論大会出場！

10月17日に実施された「令和7年度奈良県中学校英語スピーチ・レシテーションコンテスト」において、奥村茉由さん(中3)が見事3位入賞を果たしました。この結果を受け、11月26日から28日に開催された「高円宮杯 第77回全日本中学校英語弁論大会」へ奈良県代表として出場しました。

高円宮杯は1949年の創設以来、国内最高峰の中学生英語スピーチ大会として知られています。全国47都道府県から選抜された151名の代表が集い、数日間にわたり、自らの考えを英語で力強く表現しました。



奥村さんは、ジャグリングに挑戦したことから自信を持ち、自分の世界が広がった経験を語ったスピーチを披露し、多くの参加者にも強い印象を残しました。

WRO 2025 Japan 決勝大会で大活躍！帝塚山生が決勝進出および上位入賞

WRO 2025 Japan 決勝大会において、小学校ロボット教室の有志で参加している児童と、中高・理科部ロボット班の生徒が見事な成績を収めました。奈良予選会を勝ち抜き世界大会出場への選考を兼ねた全国大会へ進出した帝塚山生は、決勝進出や上位入賞という見事な成果を残しました。

小学校チームはRobo Mission エキスパート競技で決勝ラウンドへ進出。中高チームはFuture Innovators 部門で優良賞・第2位、さらにRobo Sports 部門で第3位を受賞しました。全国から選抜されたチームが集う中での入賞は、日々の創意工夫と努力、そしてチームワークの成果です。

惜しくも世界大会出場にはあと一步届きませんでしたが、帝塚山生の挑戦はこれからも続きます。次の目標に向けて、さらなる成長と活躍が期待されます。



左より築山さん、小津さん

【出場者】

●小学校

〈決勝ラウンド出場〉

築山 弘嗣さん 小津 藍奈さん (小5)

●高 校

〈Future Innovators 部門 優良賞・第2位〉

小林 篤志さん 松岡 律さん 吉田 隆聖さん (高2)

〈Robo Sports 部門 第3位〉

貝吹 央祐さん 米田 直弘さん 橋詰 大生さん (高2)



NHK杯全国放送コンテストで中高放送部が活躍

中高・放送部が、今年もNHK杯全国放送コンテストで優れた成績を収めました。中学生及び高校生それぞれが全国大会に出場し、確かな実力を発揮しました。

中学校放送部は、「第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト」のラジオ番組部門において、全国69作品の中から上位12作品に選ばれ、優良賞を受賞しました。作品名は「分かりあえる?」で、中川琴葉さん(中3)、篠田和花さん(中3)、今泉明咲日さん(中2)の3名が制作に携わりました。身近なテーマを丁寧に掘り下げ、聴く人に共感を与える作品として高く評価されました。



左より篠田さん、中川さん、今泉さん

高等学校放送部も、「第72回NHK杯全国高校放送コンテスト」に出場し、アナウンス、朗読、ラジオドキュメント、テレビドキュメント、創作テレビドラマの計5部門にエントリーしました。このうち、アナウンス部門に出場した佐藤心花さん(高3)が準決勝進出・入選の成績を収めました。



賞状を手にする佐藤さん

放送部は、2007年以来連続して全国大会に出場しており、準決勝進出も2014年から10年以上続いています。日々の地道な練習と、伝えることへの真摯な姿勢が、こうした成果につながっています。

放送部の活動を通して育まれた表現力やチームワークは、今後の学びや成長にも大きく生かされていくことでしょう。

中学校・高校推奨資格 実用英語検定試験

【2025年度第1回 実用英語検定試験合格者】

●中学校

準1級合格:小山 悠希さん

2 級 合 格:田中 悠生さん

●高 校

準1級合格:奥野 真由さん 長田 友希さん

野村 奈緒さん 中井 美沙さん

周 至睿さん

【2025年度第2回 実用英語検定試験合格者】

●中学校

2 級 合 格:難波 真菜さん 石河 里紗さん

石川 文虹さん 岩田 莉音さん

樋口 美咲さん

●高 校

準1級合格:桑村 莉歩さん 竹内 麻結さん

奈良の大仏さまから学ぶ

— 大学 西山厚客員教授による講演 —



大学客員
教授の西山
厚先生によ
る奈良の大
仏殿に関す
る講演が、
幼稚園で行
われました。

講演には、教育学部服部准教授と教育学部の学生も「みんなのだいぶつさま」プロジェクトの一環として参加し、幼稚園と大学が連携して奈良の歴史や文化に親しむ貴重な学びの機会となりました。

お話では、「大仏さまは何でできているでしょう?」「大仏さまの鼻の穴はいくつあるのでしょうか?」など、園児たちにもわかりやすい問いかけが投げかけられました。

「大仏さまは、人だけでなく動物や植物など、すべての命あるものに『大丈夫、大丈夫』と語りかけているんだよ」という西山先生の言葉に、園児たちは興味津々。思わず大仏さまのポーズをまねする姿も見られました。

短い時間の中で、大仏殿の壮大さや南大門の仁王像、四天王像など、普段見過ごしてしまいがちな奈良の魅力について、たくさんを教えてくださいました。



奈良の魅力について、たくさんを教えてくださいました。

『みんなのだいぶつさま』プロジェクト

本プロジェクトは、教育学部の服部正志准教授の指導の下、奈良の文化に親しみながら自由な造形表現に取り組むことを目的に企画されました。学生と園児は、大仏をテーマにした学びや体験を重ねながら、奈良の歴史や文化への理解を広げていきました。その過程で得た気づきや感性を今回の造形活動で表現しています。

— だいぶつさまの目・鼻・口・手をつくろう! —



大学教育
部の服部
正志准教授
と学生によ
る「みんなの
だいぶつさ
ま」プロジェ
クトが、幼
稚園で行わ
れました。

活動の前半では、つなぎ合わせた大きな画用紙に、園児たちが好きな色のカラークラフトテープを自由に貼り付けました。さらに、普段よく使う色とあまり使わない色のクレヨンを組み合わせて丸を描き、その丸を線であつなぐことで、色と形が重なり合う不思議な模様が生れました。学生がその画用紙の四隅を持ち上げると、園児たちは画用紙の下に潜り込んだり、丸めてできたトンネルをくぐったりしながら、作品の中に入り込むように全身で表現を楽しみました。

後半では、服部准教授が用意した印をつけたロープをもとに、画用紙に大きな枠を作り、その中に園児たちが「大仏さまの目・鼻・口・手」を描いていきま

11/7



園児たちの発想を尊重しながらサポートし、園児たちはのびのびと描いていき、色とりどりの大仏さまのパーツが出来上がりました。



— だいぶつさまの螺旋髪と白毫づくり&パーツをカットしよう! —



前回の活動で、大仏さまの「目・鼻・口・手」を自由に描いた園児たち。今回はその続きとして、服部准教授と学生たちとともに大仏さまの特徴である螺旋髪*と白毫*づくりを挑戦しました。園児たちは学生と手をつなぎ、学園前キャンパス18号館へ向かい、わくわくした様子で製作を始めました。

螺旋髪*づくりでは、ろくろの上に円型の画用紙を置き、回転させながらペンで渦の模様を描いていきます。ろくろを回す速さによって模様が変わるおもしろさに、園児たちは「もつ!一回!」と夢中になって取り組んでいました。

続いて、18号館の金色壁面に使われている折り紙を、はがし、丸めて白毫を表現しました。輝く素材に触れながら、大仏さまのパーツが立体的になっていく様子を楽しんでいました。

また、前回描いた各パーツは、この日、学生と一緒にハサミで切り抜きました。自分の描いた絵が大仏さまの一部として形になるにつれ、園児たちの表情はますます生き生きとしていきます。

最後は学生と手をつないで園に戻り、大学生との交流と創作の達成感が詰まった「一日となりました」。

11/14

*1 螺旋髪：大仏さまの頭にある、丸い渦状の盛り上がり。丸い髪の毛の名称。
*2 白毫：大仏さまの眉間にある白い渦状の毛。伸ばすと約45cmの長さがある。



— ついに完成! 全長15mの大仏さまと記念撮影 —



幼稚園での「目・鼻・口・手」づくり、大学学園前キャンパスでの螺旋髪・白毫制作を経て、「みんなのだいぶつさま」プロジェクトはいよいよ最終回を迎えました。今回は、完成に向けて園児・大学生が小学校体育館に集まり、迫力ある実寸大の大仏さまを仕上げていきました。

まず、体育館の床いっぱいにロープを広げ、大仏さまの顔と体の大きな輪郭を描き出しました。そこに、これまでの活動で園児たちが作ってきた目・鼻・口・手、そして螺旋髪と白毫のパーツを一つひとつ丁寧に配置していきま

11/21



最後は、活動に参加してきた年長組に加え、この日は年中組の園児たちも合流し、皆で大仏さまの中に入り記念撮影を行いました。三回にわたる共同制作を通して、大学生との関わりや表現する楽しさを味わった園児たちにとって、大きな達成感の残る締めくくりとなりました。また、学生にとっても、園児たちと関わりながら作品をつくり上げる経験は大きな学びとなりました。



『Society5.0時代における人権・平和教育を通じた中大連携プロジェクト』

本プロジェクトは、帝塚山学園の教育連携提案事業として、大学法学部の末吉洋文教授指導の下、進められているものです。人権平和教育を通じて、中学生と大学生が共に考え、学び、未来へつなげる平和の姿を探究していくことを目的としています。

— 平和への思いを未来へつなぐ 末吉教授とゼミ生による「中学生のための平和学習」開催 —



7月11日、学園講堂にて、大学法学部の末吉洋文教授とゼミ生が、中学校2年生324名を対象に「平和学習」の特別講義を行いました。本講座は、10月に予定されている知覧・長崎への修学旅行に向けた事前学習として実施されたもので、生徒たちはこの日の学びをきっかけに、戦争や平和をテーマにした探究活動へと取り組みを広げていきました。

講義では、「国際法や「平和学」の観点から戦争の歴史と現代社会のつながりが示され、さらに末吉ゼミの学生が作成した「戦跡デジタルマップ」を用いて、奈良に残る戦争遺跡や人々の体験が紹介されました。生徒たちはタブレット端末で戦跡を検索し、クイズや暗号解読などのアクティビティを通して「平和を「自分ごと」として捉える姿勢を育んでいきました」。

その後、探究学習の成果は11月20日・21日の中学校の文化祭にて「帝塚山平和ミュージアム」としてパネル展示しました。奈良県内の戦跡の位置や戦争孤児についてなど写真資料がわかりやすくまとめられ、生徒が現地調査や文献研究を重ねて作り上げた力作が並びました。



— 平和を365日考える 「平和の日めくりカレンダー」制作プロジェクトが始動 —



「平和について考える」のは8月だけではない。日本では、広島・長崎への原爆投下や終戦記念日が集中する8月に、戦争や平和について考える機会が多く設けられます。しかし、「平和を見つめる視点は本来一年を通して持つべきもの」その思いを原点に、大学法学部末吉洋文教授の指導の下、「平和の日めくりカレンダー」制作プロジェクトが始動しました。

カレンダーでは、戦争の始まりや終結、平和条約、国際的な記念日など、国内外の平和に関する出来事を365日分取り上げ、日常の中で平和について考えるきっかけを生み出すことを目指します。

— 大学生と中学生がアイデアを形に 「日めくりカレンダー制作の合同ワークショップ」 —



中学校にて平和の日めくりカレンダー「プロジェクト」のセカンドミーティングが行われました。今回は、末吉ゼミ生が調査を進めてきた「戦争の始まりや終結、平和条約、国際的な記念日など、国内外の歴史的な平和に関する出来事が起こった日」の候補を発表し、その背景や選定理由を中学生に紹介しました。続くグループワークでは、中学生と大学生が一緒に「カレンダーをどのように広めていくかをテーマに意見を出し合いました。大きな画用紙に付箋を貼りながら、SNS発信、学校での展示、企業とのコラボ企画など多様なアイデアが生まれ、活発な議論が広がりました」。

本プロジェクトは、完成に向けて今後ワークショップや表現方法の検討を進めていきます。

世代を超えた協働を通して、平和を見つめる学びが着実に形になりつつあります。

今後は、末吉ゼミのゼミ生も協力しながらワークショップや意見交換を重ね、内容や表現方法を検討され、来年の春に完成を予定しています。



「学園前アートフェスタ2025 つながる学園前 ART&MUSIC2025」に参加

2025年11月6～9日

11月6日から9日にかけて、学園前エリアで街育イベント「学園前アートフェスタ2025 つながる学園前 ART&MUSIC2025」が開催されました。

今年のテーマは「つながる学園前 ART&MUSIC」。地元作家による展示会や、様々なジャンルの音楽コンサート、住民作品展が各会場で行われ、多くの来場者でにぎわいました。

学園からは、幼稚園年長組の園児が参加し、「感じたままに自由に表現」した作品を帝塚山学園18号館に展示しました。園児たちの豊かな感性があふれる作品は、来場者を笑顔にしていた。また、社会福祉法人奈良苑が奈良県明日香村の案山子コンテストで受賞した迫力ある作品をはじめ、地域の方々によるグラスアートや壁一面のパッチワークなど、多彩な展示が並びました。さらに1階には、奈良市立一条高等学校美術部によるインスタレーション作品や、「なら中学生つながるアート」出展作品の絵画も展示され、世代を超えた交流の場となりました。



帝塚山幼稚園年長組の作品

【構成団体】

- 主催：学園前街育プロジェクト実行委員会
- 運営：学園前アートフェスタ開催委員会
- 特別協賛：学校法人帝塚山学園、株式会社浅沼組、学園南自治協議会、学園北二丁目自治会
- 後援：奈良県、奈良商工会議所、奈良市文化振興補助事業



社会福祉法人奈良苑の利用者が作製された案山子



地域の方が作製された刺繍作品



地域の方が作製されたグラスアート



地域の方が作製されたパッチワーク



一条高校美術部によるインスタレーション作品



「なら中学生つながるアート」出展作品の絵画

中高・仲島浩紀教諭の研究が 武田科学振興財団「理科教育振興助成」に採択

2025年11月12日

中高・仲島浩紀教諭(担当教科:理科)が提案した研究「生成AIを活用した化学実験におけるリアルタイム解析支援モデルの開発と実践」が、公益財団法人武田科学振興財団の2025年度「理科教育振興助成」の対象となりました。11月12日には、シェラトン都ホテル東京(東京都港区)で贈呈式が開催され、仲島教諭も出席されました。

同財団は、医学・生命科学分野を中心に独創的な研究を支援する国内有数の財団で、今年度は総応募総数2,200件の中から高等学校部門の「理科教育振興助成」では52件が採択されています。仲島

教諭の研究は、化学実験に生成AIを活用し、実験データをリアルタイムで解析・提示することで、理解の深化や主体的な学びを促す先駆的な試みです。AIの教育活用が広がる中で、理科教育における新たな学習モデルの構築として高く評価され、助成採択につながりました。

また、近畿圏内の学校教員を対象とした研修会(8月実施)では「授業でのAI活用」をテーマに講師を務めるなど、仲島教諭は研究成果の校外発信にも積極的に取り組んでいます。



2025.9.7 2025年度(令和7年度) 総会・懇親会を開催

本年度の総会・懇親会は、昨年に引き続きホテルモントレ グラスミア大阪(大阪市浪速区)を会場に、盛大に開催しました。

総会では、提案されたすべての議案が承認されるとともに、若い世代からも積極的な意見が寄せられ、活発な議論が交わされました。

総会後の懇親会には、第3期生から今春卒業したばかりの79期生まで、幅広い世代の約130名が集い、12名のご来賓にもご臨席いただきました。玉井政弘会長の挨拶に続き、富岡将人理事長・学園長から温かいご祝辞を賜りました。

時代の変化に合わせた新たな取り組みとして、帝塚山中学校・高等学校では多様な価値観に対応する新しい

制服の導入を進めており、桑江良幸教頭からその趣旨説明と試作品の紹介が行われました。

続いて、参加者の中で最高齢(95歳)の方をはじめ、喜寿・傘寿・卒寿を迎えられる皆さんに記念品をお贈りしました。乾杯の発声は小林健校長にご担当いただき、会場は世代を超えた旧友との再会を喜ぶ笑顔と歓談の輪で包まれました。

恒例のビンゴゲームに代わって行われた「お楽しみ抽選会」では、多くの景品が用意され、番号札を手にした参加者の皆さんの期待が高まるひとときとなりました。

その後、長野至郎常務理事より締めのご挨拶があり、最後は全員で恩師・耕先生の指揮の下、校歌「茜雲」を斉唱し、会場が一体となって締めくくられました。



玉井政弘会長



富岡将人理事長・学園長



小林健校長



長野至郎常務理事



新しい制服の試作品



総会の様子



指揮を執る耕先生と校歌斉唱



第3期生と第79期生の記念撮影

2025.8.3 ギター・マンドリンクラブ創部60周年記念演奏会開催

東大阪市文化創造館大ホール(大阪府東大阪市)にて、「帝塚山学園ギター・マンドリンクラブ創部60周年記念演奏会」を開催しました。

昨年8月から月に2、3回のペースで練習を重ねてきた成果が、この日存分に発揮されました。

演奏会は三部構成で、一部は在校生、二部は卒業生、三部は合同演奏が行われ、合同ステージでは約150名が心をひとつに美しいハーモニーを奏でました。

当日は900名を超える来場者があり、会場は大きな感動と拍手に包まれました。





「*T-time*」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。



学校法人帝塚山学園
Tezukayama Gakuen

学園の「今」をもっと身近に 各学校園のInstagramをチェック！

帝塚山学園では、幼稚園から大学まで、それぞれの学校園がInstagramで日々の様子やイベント情報を発信しています。子どもたち・学生たちのいきいきとした表情や、学校生活の一コマをぜひご覧ください。

下の二次元コードから、アカウントをのぞいてみてください。
「フォロー」と「いいね!」で、応援をよろしくお願いします！



帝塚山大学



帝塚山中学校・
高等学校



帝塚山小学校



帝塚山幼稚園